

令和4年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-15-1
管理機関名 埼玉県教育委員会
代表者名 教育長 高田 直芳

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、
下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和3年 4月 1日 (契約締結日) ~ 令和4年 3月31日

2 指定校名・類型

学校名 埼玉県立小川高等学校
学校長名 蕪塚 雄一
類型 地域魅力型

3 研究開発名

「おがわ学の構築・実践」学校と地域の未来を創ろう！プロジェクト

4 研究開発概要

小川町の小中学校、県立小川高等学校の児童生徒が、発達段階に応じて地域の文化や歴史、産業等を学び、地域へ参画し、地域課題の解決に取り組む学びである「おがわ学」を構築し、総合的な探究の時間や各教科の中で横断的に活用していく。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・

開設していない

- ・教育課程の特例の活用 活用している ・

活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
空閑 厚樹	立教大学コミュニティ福祉学部教授	学識経験者

若江 真紀	株式会社キャリアリンク代表 取締役	産業界
萬燈 智子	島根県立高校教諭	先進県
福島 みどり	西部教育事務所長	教育関係者
竹澤 幸一	埼玉県川越比企地域振興セン ター東松山事務所長	地域振興

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
埼玉県教育委員会 市町村支援部 高校教育指導課 義務教育指導課 西部教育事務所 文化資源課	教育長 高田直芳 副部長 古垣 玲 教育指導幹 田中 邦典 指導主事 野澤 優太 教育指導幹 岡島 満 指導主事 采澤 敬 指導主事 歌代 圭介 指導主事 坂本 圭一郎
小川町 政策推進課 小川町教育委員会（小中学校教員含む） 学校教育課 小川町立小学校 6校 小川町立中学校 3校 地域住民 P T A 社会教育機関	町長 松本恒夫 副町長 中村 寛 課長 矢島 富男 主幹 青木 洋 教育長 小林和夫 課長 沼野 友宏 指導主事 横山 大輔 教頭 篠澤 和泉 主幹教諭 秦 健太郎、島本 浩美 教諭 島野 修次、馬場 悦子、 葛野 かすみ 教頭 茂手木 直人、瀧澤彰滋 教諭 原川 純一、水庭 健仁 東洋大学 吉田 善一 地元会社経営者 近藤 嘉則 町区長会長 鈴木 好幸 町P T A連合会（小中）幹事 工藤 陽子 高校P T A会長 蝦田 由加 高校P T A後援会長 伊得 浄子 町立図書館長 新田 文子
埼玉県立小川高等学校	校長 葦塚 雄一 教頭 篠田 俊文 教諭 花輪 恵
ホンダ・・・産業界 霜里学校・・・産業界 有機農業生産グループ・・・産業界 細川紙技術者協会・・・文化 東武トップツアーズ・・・観光	技師 圓山 昇 代表 安藤 和広 有機農家関係者 佐藤 和美 細川紙技術者協会 内村 久子 東武トップツアーズ 望月 康紀
コーディネーター	新井 和弘
※東京学芸大学	こども未来研究所 高橋 真生
※三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 株式会社	主任研究員 阿部 剛志 副主任研究員 喜多下 悠貴

※はオブザーバーとして参画

8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
----	----	------	------

カリキュラム開発専門家	新井 和弘	埼玉県	会計年度任用職員
地域協働学習支援員	新井 和弘	埼玉県	会計年度任用職員

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
おがわ学推進協議会の企画・運営		○			○		○					○
おがわ学構想委員会の企画・運営		○			○			○				○
おがわ学担当者会議（作業部会）の企画・運営				○		○		○		○		
おがわ学運営指導委員会の企画・運営					○				○			○
研修会の企画・運営												○
授業実践に係る支援・指導	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○
フォーラムの企画・運営		○	○	○	○	○	○	○				
関係各所との連絡・調整	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
補助金の管理・執行	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(2) 実績の説明

ア 業務の管理方法や、カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員の配置について

① 業務の管理方法

月に2回程度、小川高校、小川町、小川町教育委員会と打ち合わせを行い、進捗管理及び支援を実施

② 地域において構築するコンソーシアムの構成

・「おがわ学研究開発会議」の企画、運営

おがわ学推進協議会及びおがわ学構想委員会の開催（各4回）

おがわ学担当者会議（作業部会）の開催（5回）

おがわ学運営指導委員会の開催（3回）

※ 構成については、7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制を参照

③ カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員の配置

埼玉県の会計年度任用職員として任用、小川高校に配置（カリキュラム開発等専門家として週1日、地域協働学習実施支援員として週2日）

イ 管理機関による主体的な取組

- ① 構想委員会、推進協議会及び運営指導委員会の企画、運営
- ② 町、町教委、高校との定例ミーティングの企画、調整、運営
- ③ 高校の教員を対象に研修を実施
- ④ 昨年度作成したテキストを用いた授業実践について、支援及び指導の実施

ウ 継続的な取組を行うための教員の人事面における配慮等

教員の加配

エ 高等学校と地域の協働による取り組みに関する協定文書等の締結状況

平成30年度に小川町と「小川町と埼玉県立小川高等学校との包括連携に係る協定」を締結

オ 事業終了後の自走を見据えた取組

- ① 予算確保に向けた情報収集
- ② 高校の教員を対象におがわ学を軸としたカリキュラム・マネジメントについての研修の実施

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合的な探究の時間「総合歴史研究」における小川町内での学習		1回	1回			2回	2回	2回	2回	2回	2回	1回
総合的な探究の時間「日本文化研究」における小川町内での学習	1回	1回	2回			4回	2回	1回	1回			
総合的な探究の時間「総合英語研究」における小川町内での学習							2回			2回		

(2) 実績の説明

ア 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

令和3年度は、総合的な探究の時間の各講座において、①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現のそれぞれの「探究のプロセス」を意識させながら、実践を行った。「高校生が考える小川町改革案」「小川町の抱える課題についての問題解決」「小川町で起業する」「万葉集を用いた小川町活性化プロジェクト」「小川町の魅力を英語で紹介」「小川和紙の新商品開発」「自然の魅力を伝えるミュージックビデオ」「ニュースポーツ OGW（おがわ）ベース」などをはじめ、各講座で個人やグループによる地域課題研究

や地域課題解決学習が実践された。

また、小川町政策推進課に3年生全生徒対象の出前授業を依頼し、「小川町の取組～地方創生の実現に向けた取組～」と題した講義及びグループ協議、小川町政策推進課職員と生徒のやり取りが行われた。この出前授業に向けては、事前に生徒アンケートを取り、小川町政策推進課職員と生徒会本部役員が打合せを行い、小川町と本校生徒の互いニーズを踏まえた授業計画を立てることができた。

イ 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置（各教科・科目や総合的な探究の時間、学校設定科目等）

1年生では、「生物基礎」における「小川町のバイオーム」に関する学習や、LHRや「地理A」における「小川町の街歩きと小川町マップづくり」、「社会と情報」における「おがわ学プレゼンテーション」を実施した。

2年生では、「世界史B」において「紙の歴史と和紙」に関する学習や、LHR等における「起業家講座」を実施した。

3年生の「総合的な探究の時間」では、全12講座に分かれ、個人もしくはグループによる地域課題研究や地域課題解決学習が行われた。以下の表中の「テーマ・題材等」は各講座の代表的なものである。

科目	タイトル	テーマ・題材等	実施時期
総合的な探究の時間	おがわ学と日本文化研究(古典)	万葉集を用いたおがわ活性化プロジェクト	通年
総合的な探究の時間	おがわ学と日本文化研究(近現代)	小川町の抱える課題についての問題解決	通年
総合的な探究の時間	おがわの暮らしと科学	小川和紙の新商品開発	通年
総合的な探究の時間	グローバルイングリッシュA	小川町の魅力を英語で紹介	通年
総合的な探究の時間	グローバルイングリッシュB	News Program	通年
総合的な探究の時間	総合社会研究	小川町で起業する	通年
総合的な探究の時間	総合歴史研究	高校生が考える小川町改革案	通年
総合的な探究の時間	生活と美術	小川和紙を使ったランプシェード	通年
総合的な探究の時間	いろいろな数学	小中学生へのいろいろな数学	通年
総合的な探究の時間	おがわ学と数学	小川町がメガソーラーを実施したときの電力の予測	通年
総合的な探究の時間	OGAWA 健康・スポーツ学	ニュースポーツ ～OGW ベース～	通年
総合的な探究の時間	おがわ学 町に届ける演奏会	自然の魅力を伝える MusicVideo 「放課後自然部」	通年

ウ 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各教科等における学習を相互に関連さ

せ、教科等の横断的な学習とする取組について

「地域（小川町）を知り、地域（小川町）の課題発見・課題解決に資する」ことを目的として、1学年では、おがわ学オリエンテーション→理科（生物基礎）→地歴（地理A）→情報（社会と情報）でバトンをつなぎ、2学年では地歴（世界史B）→起業家講座（LHR）でバトンをつないだ。

エ 類型ごとの趣旨に応じた取組について

- ・ おがわ学フォーラム（研究開発発表会）における代表生徒によるプレゼンテーション
- ・ NPO法人カタリバ主催の「マイプロジェクト・アワード」へ代表生徒が参加
- ・ 立教大学地域創生関連ゼミ生との交流会
- ・ NPO法人パブリック・アウトリサーチによる「次世代エネルギーワークショップ」への参加
- ・ 「越境×探究！未来共創プロジェクト」フォーラムへの参加
- ・ 小川町子育て支援課主催の「みんなの食堂」「プチ・フードパントリー」ボランティアへの参加

オ 成果の普及方法・実績について

今年度は、公開授業及び研究開発発表会を併せた「おがわ学フォーラム」を開催し、町内及び県内外に広く取組を周知した。昨年度開設したおがわ学ホームページを随時更新し、情報を発信した。また、時事通信社が発行する「内外教育（第6958号）」に「おがわ学」の実践が紹介されるとともに、株式会社ベネッセコーポレーションが発行する情報誌「VIEWnext（2021年12月号）」に本校の実践を含めた特集「地域連携のあり方を問う」が掲載された。

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

- (1) 「横断的・総合的な学習を通して探究的な見方・考え方を働かせ、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を習得した生徒の割合」については、62.9%と前年度から約20.7%上昇した。目標の70%に対しては、及ばなかったが大きく前進した。
- (2) 生徒の意識と行動に係るアンケート調査の結果、「将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある」と肯定的な回答をした生徒の割合については、昨年の37.9%から今回は56.9%と上昇し、目標の60%には届かなかったが、大きく近づいた。
- (3) 「各教科・総合的な探究の時間において『おがわ学』を活用した、年間の総授業数」については目標65回に対して、628回と大幅に上回ることができた。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響から、計画通り進めることが難しかったが、内容や方法を変更しながら実践を継続して行った。
- (4) 「コンソーシアム（おがわ学構想委員会）の活動回数」では、13回と目標の10回を今年度も上回ることができた。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインビデオ会議を併用しながら、有意義な会議を開催することができた。また、11月の小・中・高それぞれの校種における公開授業及び研究開発発表会（双方を併せた「おがわ学フォーラム」）を対面式で実施できたことは大きな成果であった。

<添付資料> 目標設定シート

1 2 次年度以降の課題及び改善点

本年度の取組を踏まえ、「おがわ学」と「探究的な学習」と「GIGA スクール構想」を有機的に関連付けながら、生徒の在り方生き方と結び付いた「探究的な学習」を推進していくことは重要な課題である。また、生徒の企画やアイデアを小川町における具体的な取組へと発展させていくことも課題である。

令和3年度をもって文部科学省指定の「地域との協働による高等学校教育改推進事業」は終了となるが、令和4年度から令和7年度までは埼玉県教育委員会高校教育指導課の「地域との協働による探究活動推進事業」の指定校となり、「おがわ学」のねがいである「小川町に係わるすべての人々が充実したよりよい人生を送ること」「『おがわ学』を学んだ児童・生徒が将来、地域や社会を支え、世のため人のために力を尽くしてくれること」に向け、引き続き小川町や小川町立小中学校、地域住民の方々と連携協働しながら取組を継続して行っていきたい。

【担当者】

担当課	生涯学習推進課	TEL	048-830-6979
氏名	高相恵美・岡本敏明	FAX	048-830-4964
職名	指導主事・指導主事	e-mail	a6975-05@pref.saitama.lg.jp